

枚方市教育大綱の策定にあたって

近年、ICT、AI などの新技術の進展は目覚ましく、こうした技術の進展は、情報、交通、経済、通貨、文化などのグローバル化、ボーダーレス化を加速させています。こうした世界規模の変化は、そのスピードにおいても、これまでに人類が経験したことのないものとなる可能性があり、人の仕事の多くが人工知能やロボットによって自動化される、そうした未来が到来することは想像に難くありません。

こうした中で、これから社会に出ようとする子どもたちは、人にしかできない仕事、人にしかできない役割を模索しながら、急激な時代の変化に対応して生きていくための答えを探し求めていかなければなりません。

今日の教育の最大の使命は、こうした時代認識のもと、子どもたち一人ひとりに様々な出会いや経験の機会を作り、豊かで多様な人間性を育みながら、未来社会をしなやかに生き抜く力を養うことであると考えます。

小学校においては令和2年度から、中学校においては令和3年度から、新学習指導要領が実施されます。新学習指導要領には、今求められる子どもの生きる力、必要とされる能力、また、それを身につけるために、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」が明確に示されています。

新学習指導要領の内容を教職員一人ひとりが十分に理解し、自分のものとして実践することが極めて重要です。こうした考えの下、「枚方市教育大綱」では、本市の教育理念を示すとともに、本市の教育における課題を踏まえた重点方針を示し、家庭や地域等と連携しながら、教育委員会とともに枚方市教育振興基本計画に基づく教育施策を推進していきます。

誰ひとり取り残さず、枚方市立学校園で学ぶすべての子どもたちが社会の大海原で自立して生きて行くことができるよう、集団生活や職業の体験、地域社会との関わりなど、社会で生きていくための準備の場として様々な体験の場を提供し、生きる力を育み、未来への可能性をできる限り多く持たせたまま社会に送り出してあげることを枚方市の学教育の使命とし、“枚方のこども”を育成します。

令和2年3月
枚方市長 伏見 隆